

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム Ring

日付 平成18年3月31日  
特定非営利活動法人  
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年  
評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

### 外部評価の結果

#### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

広い前庭では、利用者と職員がパンジー等の花を植えていた。今日は暖かい陽射しが一杯の春日和となり、外で過せる季節となった。暖かくなると、人間や動物も元気になる。昨年も出迎えてくれた犬2匹、豚1匹、鶏達皆元気だった。リビングルームにも、花植えの利用者も戻ってきて、皆でテーブルやソファでゆったりと自由時間を過している。日向ぼっこで、うとうとと一眠りも気持ち良さそう。その人の上で、愛玩用の生きた鼻が、キョロキョロと大きな眼で利用者を見ながら木に止まっている。利用者と職員のことは何でも知っているのかなあと思った。

上下階に2ユニットがある。玄関には、利用者がすく出入りできるよう、下足靴がすぐ取れるように置かれ、庭に出たり、買物や散歩にも頻繁に出入りしている様子が想像できる。1階の人達は昼に庭に出て、建物に面したウッドテラスで、昼食をランチ気分で味わった。庭やテラスでティータイムを楽しんだり、バーベキューをするそうだ。

1階のユニットと2階のユニットでは、雰囲気が違う。そこに住んでいる利用者の性格や状態も違う、職員の関わり方によって生活の仕方も変わってくるだろう。一言で云うと、1階は「陽と動」、2階は「陰と静」という印象を受けた。これは利用者の動き、表情、会話など生活の風情から感じる事である。それは2階という位置関係にもあるだろうし、リビングルームでの生活リズムを感じられなかったことや、共同生活の楽しさが余りなかったことが大きいように思う。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者は、一人ひとりの自由な生活をゆったりと穏やかに過してもらうことは当然であるが、それだけでは生活リズムもなく、共同生活の楽しさも味わえない事になる。グループホームはプライベートの時間と皆と楽しく過す共同の時間が混在していて始めて楽しい生活が出来ると思うが如何でしょうか。

管理者や職員が入れ代わっているので再構築中のようであるが、余りユニット間の職員の意見交換の機会も少ないように思う。こんな時こそ、ユニットという単位にこだわらず、ホーム全体で職員の意見交換や意思疎通を活発にして、ホーム全体の活性化を計らないと、ユニットの生活が盛り上がりを感じない。

グループホームの情報や生活の様子を家族にもっと積極的に知らせて、家族が喜んで協力してくれる雰囲気づくりをしてもらいたい。

#### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

認知症ケアの基本は「人間」である。何時も言っているが、そこに住んでいる利用者の人間性に関わる職員の気持ちによって、両者の心の交流があって、その暮らしを生み出すと思う。そして一人ひとりの生きがいは、各人が自分勝手な思いで生活する事ではなく、周りの人との協調と共生を保ちながら、一人ひとりが自分自身の思いを達成することであろうと思っている。

1階のケアのあり方として、「利用者同士の関わりや思いやりのある行為が利用者から出てきている」「自由に伸び伸びと生活をしている様子からは、管理者や職員が壁に当たると智恵を出し合って新しい展開を見つける」2階のケアは一部の人の声であるが、「家で過すと我がままが出て、いざこざが起きてしまう。ここで生活しているのは義理で過ぎないと上手いきません」

何か対照的なものを感じざるを得ない。これが事実ならば、ホーム全体としてもっと良くなるサービスはどうすれば良いか、よく全職員で討論して共通した方向性を出して貰いたいと思う。

#### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

昨年は、豊富な人材を擁して活気のあるグループホームだったが、その人達も夫々の志で独立していった様で、新しく出直しをしている所である。代表者と各ユニットの管理者は色々な面で意思疎通を計っているが、2つのユニットの雰囲気の違いが大きいという事が一番気になっている。それは利用者として接してみても、表情、話しや笑い声、行動を見ると明らかに違う事がある。利用者の性格や特徴にもよるが、先ず職員が元気で楽しくないと、利用者が元気になる筈がないと思う。

管理者や職員も苦勞して頑張っていることは理解できるが、ケアとサービスの向上は、職員同士の向上以外何物でもないということ再認識して頂き、グループホーム全体の問題として再び代表的な地域の範となるよう期待している。

#### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

「穏やかで、喜んで、安らいで、あなたらしい日々を」を理念に掲げ、「その人が歩んで来た人生の延長であり、ここでの生活が特別な場所や時間でないと考えている」「自由であり、穏やかな時間が流れている空間でありたい」「失いかけている生活を取り戻してあげたい」これらをケアに関する目標として、代表者を始め管理者と職員が日々頑張っている。利用者同士でも、弱いところを助け合ったり、不安な気持ちになっている人を庇い合って生活している人達もいる。

何か壁に当たると、とことん考え、智恵を出し合って実践しており、最後まで安心して過せるように支援している。

#### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

国道に面した入口を入ると、広い庭があり、花壇や菜園があり、動物達の小屋がある。その奥の建物の外側に一段と高くなったウッドデッキがあり、テーブルと椅子がある。ここで利用者は日向ぼっこをしながら、ティーやランチを楽しむことが出来る。そしてバーベキューの火床もある。利用者や職員、そして家族や近所の人々がここに集まって賑やかな時を過している様子が目に浮かぶ。写真もあった。

玄関を入ると、1階の入口と2階への階段があり、それぞれのユニットがある。リビングルームと厨房からは居室の様子は見渡せないが、浴室や洗濯場と居室と隣接しているので、いつも職員の眼は行き届いている。

居室はそれぞれ個性を生かした部屋作りをしている。夫婦部屋もある。

#### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		